

烏帽子会会報

2018年春号 Vol.64



白衣授与Student Doctor認定式 集合写真(H30.3.10)

- 第37回烏帽子会總會のご案内 4 p
- 福岡大学西新病院の開設 5 p
- 教授 就任 挨拶 6 p

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 会長挨拶	
御挨拶	高 木 忠 博 3
・ 総会案内	
第 37 回烏帽子会総会のご案内	4
・ 福岡大学西新病院の開設	
ビジョンとミッション	大慈弥 裕 之 5
・ 教授就任挨拶	
教授就任のご挨拶	近 藤 誠 二 6
教授就任のご挨拶	長 町 茂 樹 7
・ 募集要項	
研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項	8
・ 在外研修報告	
オーストラリア人ってこんな人	伊 藤 建 二 9
海外留学体験記	津 川 潤 11
タイのコンケン大学で行われた ICEM に参加して	野 中 裕 文 13
在外研修生一覧	17
・ 学生会員支援報告	
白衣授与式を終えて	西 野 正 嗣 18
・ 支部だより	
大城昌平先生の古希祝い	浅 倉 敏 明 19
秋吉恵介先生の絵画展	浅 倉 敏 明 20
・ キャンパス便り	
平成 30 年度 烏帽子会賞受賞者名簿	21
第 69 回西医体準優勝のご報告	大 西 七 絵 21
西日本医歯薬学生卓球大会優勝を通して	麻 生 大 貴 22
JIMSA Speech contest 2017 優勝、審査員特別賞を受賞して	衛 藤 響 子 23
福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準	24
・ 訃 報	
廣木忠行先生に感謝をこめて	朔 啓二郎 25
哀悼 松岡雄治先生	松 永 彰 26
追悼 オーベンだった東陽一先生へ～感謝を込めて～	安 元 佐 和 27
斉藤 之先生を偲んで	占 部 嘉 男 28
田中達朗君を偲ぶ	護 山 健 悟 29
竹嶋亮太郎先生を偲んで	原 仁 美 30
・ 烏帽子会の主な事業	31
・ 医局長・医長名簿	32
・ 教育職員人事	33
・ 事務局だより	33
・ 編集後記	(裏表紙)

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

会長挨拶

御挨拶

烏帽子会 会長 高 木 忠 博 (1 回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



最近は、世界も大きく変化している様子です。小生も先日の評議員会にて会長再選にご承認を賜り同窓会総会での評決をいただく運びになりました。ご支持をいただきました皆様には紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

その一方では福岡大学も大きく変化しようとしています。私どもの年来の悲願でありました病院本館の建て替え計画が、4月の福大評議委員会におきまして議題として提案されついに実現にむけての一步を踏み出した模様です。今後烏帽子会としましては母校病院の隆盛のため、さらに貢献させていただかなければならないと痛感いたしている次第です。

また朔学部長が再選を果たされましたことは喜びに堪えません。今後とも同窓会と医学部との理想的な関係を模索し続けていかねばならな

いと身の引き締まる思いがいたします。さらに喜ばしいこととして3回生の廣瀬教授が121年の歴史を誇る日本小児科学会を主催されました。同窓生が学術会議の主幹学会という権威と格式ある学会の会長を務められますのは廣瀬君をもって嚆矢となります。またその学会におきまして6,000人を超える歴代最高の参加者数と演題数を記録されましたことは同窓生全員の誇りとすべきものでしょう。

さらに、我々の後継者であります学生の教育には、安元教授が教育推進講座を主催してあたられ私どもの夢であります医師国家試験合格率100%達成に向けて説意努力を続けていただいておりますので、この世におります間に夢が現実のものになるのではと期待が膨らんでまいります。我々は、今後とも学生教育を重点とした在校生のための助力を一時たりとも忘れてはならないと感じています。

最後に、烏帽子会は、医学部と病院における教育、研究、臨床のすべてにおいて求められれば全力で支援する成熟した同窓会を目指して、一步步堅実に進んでいきたいと思っています。これからも同志の皆様の御協力をお願い申し上げます。

第 37 回烏帽子会総会 開催要領

第 37 回烏帽子会総会へのお誘い

担当主幹事学年：
21 回生代表 北島 研
(福岡大学病院 循環器内科)



担当副幹事学年：
31 回生代表 中島 勇太
(福岡大学病院 血液・腫瘍・感染症内科)



皆様こんにちは。

今年の第 37 回福岡大学医学部同窓会・烏帽子会総会は、21 回生が主幹事、31 回生が副幹事で準備を進めております。

今年のタイトルは、『1 のつく卒業回集まれ!』と題し、1 回生から、今年卒業された 41 回生の先生まで、5 世代の OB・OG の先生を中心にお誘いしています。もちろん全ての会員の皆様大歓迎です。総会後の講演会では、「1」のつく卒業回 4 名の先生から約

10 分ずつお話を頂き、講演後には全員でのディスカッションを行いますので、会場に遅く着いても同級生のお話を聴くことができます。19 時からは懇親会がありますので、久しぶりの同級生、先輩、後輩の先生にぜひ会いにお越しください。今年の七夕の夜に福岡・天神で幹事一同お待ちしております。ご出席の先生は巻頭の綴じ込みハガキで 6 月 20 日までに同窓会事務局までお知らせください。

日 時：7 月 7 日 土曜日

会 費：5,000 円

場 所：ソラリア西鉄ホテル 8 階

福岡市中央区天神 2-2-43 電話 092-752-5555

総 会：17 時 00 分～

講演会：17 時 50 分～

17:50 ～ 31 回生 飯塚病院 腎臓内科 佐々木 彰 先生

18:00 ～ 21 回生 東京慈恵医科大学 糖尿病・代謝・内分泌内科 川浪 大治 先生

18:10 ～ 11 回生 高嶋クリニック 高嶋 雅樹 先生

18:20 ～ 1 回生 福岡大学医学部長 朔 啓二郎 先生

18:35 ～ ディスカッション：これからの福岡大学医学部を考える

懇親会：19 時 00 分～

福岡大学西新病院の開設

— ビジョンとミッション —

医学・医療担当副学長 大慈弥 裕 之 (3回生)



平成30年4月1日、福岡大学西新病院が開院しました。所在地は福岡市早良区祖原。地下鉄空港線西新駅が最寄り駅で、西新商店街にも隣接した便利で人口の多い市街地にあります。

この病院は、同地で35年間地域医療を担ってきた福岡市医師会成人病センターを譲り受けたものです。同センターは消化器および循環器を中心とした120床の内科系病院でした。地域医師会員と連携して内科救急医療や健康診断、在宅医療支援にも力を注いできたことから、地域住民や医師会員から大きな信頼と支持を得てきました。

わが国では、超少子高齢化といった急激な社会構造の変化を受けて、法律に基づいた社会保障制度改革が行われ、医療・介護保険制度やサービスの提供体制の改革が進められています。よって今後、病院はそれぞれの病床や外来機能が明確化されることとなります。例えば大学病院の場合、高度医療や教育を担う特定機能病院としての機能をさらに充実させることが求められるでしょう。大病院、中小病院とも将来の存続が単独では難しくなり、何らかの形で地域の医療施設間の連携を強化することが必要となっています。このような背景の中、福岡大学と福岡市医師会との間で話し合いがなされ、今回の事業譲受となりました。

福岡大学西新病院の初代病院長には、石倉宏恭医学部教授(救命救急医学)が就任しました。福岡市医師会成人病センターが長年築き上げてきた地域との強固な病診連携(医療施設間の連携)を維持しつつ、福岡市西部地区の小児二次救急医療体制を強化するために、新たに小児科を設置します。「地域に信頼される医療の提供」を理念とし、福岡大学病

院との強い連携の下、高度・高品質な医療の提供、医療安全の確保、健康寿命延伸のための予防医療の推進、加えて医療従事者の育成を行います。

開院に向けて診療体制を整備しました。診療科は、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、内科(健診)、小児科の6つとなります。幸い、それぞれ診療能力の高い医師がそろい、看護師、医療技術職員、薬剤師、事務職員も整いました。短期間での体制整備にご苦労されたものと思います。この場を借りて関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。成人病センターから継続して働いていただく方、そして福岡大学病院から新たに赴任した方、4月1日から福岡大学西新病院職員として気持ちを一つに合わせて、新たにスタートしていただきたいと思います。

西新病院が良い医療を提供し永続的に発展するには、病院としての経営基盤を当初から強固にしておく必要があります。効率的な業務運営体制の構築には、病院長ガバナンスの強化、計画実行力の高い組織体制の構築、人材の有効活用と効率的な配置が重要となります。また、大学本部との協力体制も欠かせません。西新病院ではこの点にも配慮した運営体制が計画されています。

西新病院の開設によって、福岡大学における医療施設は4つになります。福岡大学病院は地下鉄七隈線、福岡大学筑紫病院はJR鹿児島本線および西鉄天神大牟田線、西新病院は地下鉄空港線でアクセスできます。これらは数年後には地下鉄七隈線延伸により、博多駅に隣接する福岡大学博多駅クリニックを介して地下鉄または電車で直結します。大学医療施設として、福岡都市圏での点から線、そして面への展開が可能となってきました。職員の皆さまが、これらの恵まれた資源を生かして存分に活躍いただければ、それぞれのキャリアや組織をさらに発展させることが可能と考えます。それは結果的に、福岡大学のブランディングに寄与することにもなり、医学・医療担当副学長としては望外の喜びとなります。

教授就任挨拶

教授就任のご挨拶

福岡大学医学部 歯科口腔外科学講座 主任教授 近藤 誠 二



近藤 誠 二
主任教授 略歴

生年月日：1967年4月20日生れ / 50歳
所 属：福岡大学医学部医学科歯科
口腔外科学講座 主任教授

【経歴／学歴】

昭和61年3月 / 岡山県立倉敷古城池
高等学校卒業
昭和61年4月 / 九州歯科大学歯学部
歯学科入学
平成4年3月 / 同歯学科卒業
平成4年4月 / 岡山大学歯学部附属
病院口腔外科学 第一講座 入局
平成7年9月 / 川上診療所歯科常勤
歯科医師
平成11年4月 / 岡山大学大学院歯学
研究科口腔生化学 講座専攻
博士課程 入学
平成15年3月 / 同 博士課程 修了 博士
(歯学)
平成15年4月 / 日本学術振興会
特別研究員
平成18年4月 / 岡山大学大学院歯薬学
総合研究科 顎口腔放射線分野助手
平成18年8月 / 島根大学医学部附属病院
歯科口腔外科助手
平成19年8月 / 島根大学医学部附属病院
歯科口腔外科講師
平成22年7月 / 昭和大学歯学部顎口腔
疾患制御外科学講座准教授
平成24年10月 / 島根大学医学部臨床
教授兼任
平成28年4月 / 福岡大学医学部歯科
口腔外科学講座准教授
平成29年1月 / 公益財団法人結核予防会
新山手病院歯科口腔外科センター顧問
平成30年4月 / 福岡大学医学部歯科口腔
外科学講座教授 就任

【資格】

- 1 歯学博士(課程)
- 2 (公社) 日本口腔外科学会 専門医、
指導医
- 3 インフェクションコントロールドクター
(ICD)
- 4 一般社団法人 日本がん治療認定医
(歯科口腔外科)
- 5 臨床修練指導歯科医

平成30年4月より、喜久田利弘教授の後任として歯科口腔外科学講座の教授に就任いたしました。伝統ある講座を担当させていただくこととなり、大きな喜びと同時に責任の重大性に身の引きしまる思いです。

私は平成4年に九州歯科大学を卒業後、岡山大学、島根大学、そして昭和大学と様々な大学病院および関連施設を経験しながら、平成28年4月より福岡大学医学部歯科口腔外科学講座准教授として着任しました。それ以来、福岡大学の口腔医学の診療・研究・教育に努めてまいりました。

口腔外科という呼称に馴染みがない先生方がおられるかもしれませんが、歯や顎骨にまつわる先天疾患、炎症、嚢胞、腫瘍性病変の外科的治療を行なっている診療科です。そして、これらの治療で歯の喪失や顎骨の欠損が生じた場合、顎骨の造成を行ったり、人工歯根である歯科インプラントを併用した口腔機能の再建手術などを行なっています。

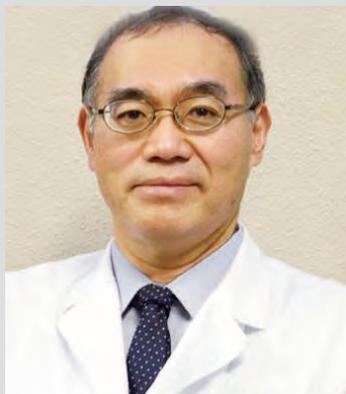
ところが、昨今の超高齢化社会の進展に伴い、口腔という局所の問題のみを考慮するだけでは、安心・安全な治療を提供することが難しくなってきました。すなわち、超高齢化社会における患者さんは、多種多彩な基礎疾患、病態が混在していることが多く、口腔外科の治療にあたっては、多くの専門家や多職種連携によるチーム医療が求められます。口腔や頭頸部領域においては、境界領域である耳鼻咽喉科や眼科の、そして形成外科、脳神経外科、さらには専門・細分化された各内科の先生方からのご協力を得ることが必須となっています。

そのためにわれわれ歯科医師は、医学的知識と手技など自己研鑽を絶えず行い、同時にコミュニケーション能力や共感する力を育まなくてはなりません。多くの専門家達やコメディカルの方々と対等に渡り合える人間力を向上させていかねば、円滑なチーム医療が実現できません。

私は昨今の目まぐるしい環境変化に柔軟に対応できる医療人を育成し、口腔医学の診断・診療を通じて社会に貢献し、福岡大学医学部の発展に少しでも貢献できるよう努力してゆきたいと思いますので、今後ともご支援のほど宜しくお願いいたします。

御挨拶

福岡大学病院 放射線部第二 教授 長 町 茂 樹



長 町 茂 樹
教授 略歴

- 長町茂樹 (ながまちしげき)
1958/12/07 生まれ
- 1977. 3 香川県立高松高等学校
卒業
 - 1978. 4 宮崎医科大学医学部
医学科入学
 - 1984. 3 宮崎医科大学医学部
医学科卒業
 - 1984. 6 宮崎医科大学医学部
放射線科研修医
 - 1994.12 米国カリフォルニア大学
ロサンゼルス校 (UCLA)
留学
 - 2000. 4 宮崎医科大学医学部
放射線科講師
 - 2002. 4 宮崎医科大学医学部
放射線部助教授
 - 2007. 4 宮崎大学医学部
放射線部助教授
 - 2017. 4 福岡大学病院放射線部
准教授
 - 2018. 4 福岡大学病院放射線部
第二教授
- 現在に至る

平成 30 年 4 月より福岡大学病院放射線部第二教授、及び診療部長に就任致しました長町茂樹と申します。前任の桑原康男教授の後任として平成 29 年 4 月から核医学を専門に診療、教育、管理に携わっております。一昨年までは宮崎大学医学部放射線科で核医学診療、教育、研究を行って参りました。本学に赴任後も継続させていただきます。

同窓会と言えば、私自身、卒業した宮崎医科大学、宮崎大学医学部同窓会の同窓会長を 10 年間努めた経験があります。同窓会活動の問題点は、同窓生の出身地が全国に及ぶため名簿の継続的作成が難しい点でした。また、同窓会総会、懇親会を開催しても、ある年齢以上の同窓生は参加しますが、若手は参加しない傾向にありました。この傾向は関東や関西の支部会でも同様でした。福岡大学同窓会ではいかがでしょうか？同窓会には無限の可能性があります。セカンドキャリアの形成に役立つ情報ソースを含め多くのメリットがあろうかと存じます。福岡大学の若い同窓生の方々には、同窓会を通じての繋がり、絆を大切にいただければと存じます。私の出身は四国の香川、高松です。博多も様々な‘うどん’で有名ですが、香川にも‘うどん県’という名前の通り、独特のうどん文化があります。概して麺の‘こし’が強く博多のうどんとは全く別料理です。帰郷の際にはうどん屋のはしごをすることもありました。最近ではメタボの管理のため暴飲暴食は控えておりますが、当初は衝動を抑えるのに苦労しました。また‘醤油豆’や‘てっばい’‘わけぎあえ’等の讃岐郷土料理も時々懐かしくなります。香川県出身の方がおられましたら、お声をおかけください。

母校のある宮崎県で暮らした年月は香川に住んだ時間のほぼ 2 倍ですので、食に対する嗜好は宮崎地鶏やチキン南蛮等に完全にシフトしました。民放テレビ局が 2 つしかなく情報も少なかったのですが、その事に不自由を感じなくなっていました。プロ野球ではソフトバンクファンなので、ソフトバンクがキャンプ地の宮崎に来る 2 月は楽しい時期でした。元々は熱烈な阪神ファンでもありますが、博多に居を構えるにあたりソフトバンクオンリーに気持ちを变えるべく頑張っています。今年の鷹の祭典には参加予定です。以上、散文的に自己紹介をさせていただきましたが、宮崎県で勤務していた折も福岡大学出身の先生とは仲良く仕事をさせていただきました、とても親近感を覚えました。田舎者ですが、どうぞ今後とも宜しくお願い申し上げます。

2019 年度 福岡大学医学部同窓会 研究奨励賞 募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本会会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由（医学に関する研究論文又は研究計画）

申請方法：所定の申請書による（所定欄に支部長推薦を要す）

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

締 切：2019 年 5 月 7 日（火）

賞状・賞金：奨励賞（優秀論文賞を含む）5 件以内

発表及び表彰：2019 年 7 月、第 38 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること

計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること

②申請書は同窓会ホームページからダウンロードするか、同窓会事務局に請求のこと

③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績（原著、著書、症例報告、学会発表）、
研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もお応募下さい。

福岡大学医学部同窓会 在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象：正会員、準会員（本会会費完納を条件とする）で医学の研究または医療技術の習得のため、
3 ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発 3 ヶ月前までに提出のこと

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
T E L 092-865-6353（直通） 代表 092-801-1011 内線 3032
F A X 092-865-9484

援助金：1 件 20 万円を限度とし、年間 5 件以内

発 表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表すること

②研修中に生じた問題について同窓会は関与しない

③申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードのこと

なお、在外研修援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事業に賛同し、渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

在外研修報告

オーストラリア人ってこんな人

福岡大学医学部 腎臓・膠原病内科学 伊藤 建二 (25 回生)

福岡大学医学部腎臓・膠原病内科学の伊藤建二です。

このたび、福岡大学医学部同窓会からの助成を頂き、2015年11月から2017年9月末までの2年間、オーストラリア・メルボルンにあります、Monash University Medical Centre の炎症性疾患センター (Centre for Inflammation Disease) というところで留学して参りました。この教室は、さらに腎臓・膠原病、肝臓、血液疾患、脳卒中、呼吸器の5つのグループに細分化されており、私は当然腎臓・膠原病ラボに所属しておりました。この教室を主宰する Holdsworth 教授は、当科の斉藤喬雄名誉教授のメルボルン留学時代の同僚で、ANCA や抗 GBM 抗体腎炎などを中心とした急速進行性糸球体腎炎に関する研究を中心に研究が行われています。今回の帰国報告では、メルボルンで過ごした2年間を振り返り、オーストラリア人について思うことを徒然なるまに書いてみようと思います。

オーストラリアの人々について考えてみたいと思うのですが、その前に一つ考えてみて欲しい事があります。もし、自分のルーツについて訪ねられたとしたら、どう答えるでしょうか? 「○○地方の△△地域」という答えが多いかと思いますが、「□□藩の家老の家柄」や、はたまた、1000年の時を遡って「平氏(源氏)の流れ」と答える方もいるかもしれません。ただ、いずれにしてもそのルーツが日本を出ることは非常に稀で

しょう。一方、オーストラリアで同じ質問をしたら、様々な国名を聞くことができます。そもそもオーストラリアという国がヨーロッパからの移民によって始まり、英連邦の一部であったこともあります。政府の積極的な移民政策により旧英連邦外の国からも多くの移民を受け入れており、同国の移民率は21%(日本は1.7%)と非常に高いのです。たとえオーストラリア生まれの人でも、その半数以上は父母もしくは祖父母が外国生まれなのです。そして彼らは、そのルーツを元にする宗教・習慣を非常に大切にしています。その結果、同じ国に居ながらも、多種多様な生活を送ることとなります。良くも悪くもある程度共通した画一的な考え方を重視し、異質なものを排除したがる日本人に対し、オーストラリア人はすべてが違って当たり前という考え方をベースに、広く個性を受け入れる土壌が整っていると言えます。この点は、私の留学生活において非常に助けとなりましたし、私の身ならず子供達にとっても視野を広げる良い経験になったと思います。

このように、様々なルーツを持つ Aussie 達なのですが、不思議と性格に関しては共通点が多く、驚くほどフレンドリーかつ親切です。路を訪ねれば行き先まで連れて行ってくれる事もしばしばですし、困ってきよきよしていたら、「どうした?」と縁もゆかりもない通行人が声をかけてくれます。これらの親切心は、老人・子供に対してはさらに強く発揮され、ベビーカ



ラボメンバーも国際色豊か



W杯最終予選 / VS オーストラリア戦を家族で観戦

ーを押すお母さん、車いすに乗った老人が交通網の頂点に位置し、まるでモーゼの十戒のように人の波が割れていきます。電車で「ベビーカーをたため」なんて頭の片隅にもありません。そして、仕事面においては、家庭生活を重視するという考え方が社会に根付いています。5時を過ぎると職場あに人影がなくなりますし、6時を過ぎるとガードマンさんがラボの各部屋のドアを閉めて回ります。大都会にもかかわらず、多くの商店は金曜日を除いて5時には閉店しますし、飲食店にしてもバーを除けば10時～11時に閉店するところがほとんどです。仕事のために家族を犠牲にという考えを持つ人はほぼ皆無で、仕事のアボがあっても「子供が熱出して・・・」の一言でオールOKになります。また、気付けば2-3週間かけて大型家族旅行に行っていたり、ということも珍しくありません。他人にも、自分の家族にも優しい、そんな愛すべきオーストラリア人なのですが、人の良さが過ぎるのか、もうちょっと物事を深く考えて欲しいな、ということも多々ありました。つまりちょっと「おバカ」なんですよ。

ざっと思いつくエピソードを挙げますと・・・

- ①路を訪ねると親切に教えてくれる→言われた先が間違っている
- ②同じ部署に問い合わせをしても、対応する人によって言うことが違う（というか、分からないことも適当に言う、すなわち嘘を教える）
- ③手続きに必要な書類など小出しに連絡され、一向



アジア太平洋腎臓病学会にて (at Perth on 2016.9.18)

に手続きが進まない

- ④目の前の信号が赤でも、直前までフルスピードからの急ブレーキ
- ⑤打ち合わせや配達など、約束の時間はまず守られない
- ⑥仕事が適当すぎて、いろいろな物がすぐ壊れる、、、などなど日本では考えられなかった事を普通にやらかします。ちょっと考えればもっと効率良くやれるのに、とか、公私にわたってそんなことばかりでした。たっぷりと資源を蓄えた大陸を独り占めし、台風や地震などの大きな自然災害が皆無と言ってもいい平穏な生活がそういう素因を作るのでしょうか。その点、日本人は生活できる場所が限られ、大きな自然災害と常に闘ってき来ました。その歴史に培われた、限られたソースを元に物事を効率的かつ正確に解決する力、というのは、本当に尊敬に値すると思います。

オーストラリアで過ごした二年間、あつという間なような、長かったような。日本に帰ってきてから振り返ると、完全に自分の人生の中で切り取られた、夢の中の時間だった様に思います。それが現実だったんだと思えるのは、写真を見返したとき、娘達が（自分ではない）上手にオーストラリアなまりの英語を話すのを見るとき位でしょうか。それでも、今回海外で生活する機会を得て、日本が見習うべきところも見つかりましたが、日本の、そして日本人の良いところをそれ以上に発見することが出来ました。この経験を生かし、そして医局・大学・同窓会に還元して行きたいと考えております。改めまして、この様な機会を与えてくださり、応援してくださいました、福岡大学医学部同窓会の皆様、中島教授、斉藤名誉教授、医局員の皆様、同窓会の皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



斉藤先生来豪
30年前の同僚と自身達の写真の前で

海外留学体験記

福岡大学医学部 神経内科学 津 川 潤 (準会員)

2017年4月1日から1年間、神経筋超音波と神経電気生理を学ぶため clinical research fellow としてシドニー大学へ留学させて頂きました。受け入れ先のシドニー大学 Brain and Mind Centre (BMC) Fore Front Fronttemporal Dementia and Motor Neuron Disease の Matthew 教授は、若くして JNNP の chief editor も務める優秀な神経内科医ですが、スタッフ思いの優しい紳士で、英語が苦手な私にも丁寧に多くのアドバイスをしてくれました。

Matthew 教授は ALS、特に発症早期から ALS でみられる cortical hyperexcitability を Threshold tracking TMS(TT-TMS) という経頭蓋磁気刺激装置を利用して確認することを研究室のメインテーマとしていました。そのためこの技術を習得するためにオーストラリア国内や海外から研究生(多くは臨床医)が短期間で勉強にきていました。

私が所属していた部署は、運動ニューロン疾患専

門クリニックで、Matthew 教授を含め診察を担当する Clinician は 3 名ほどで、その他に臨床心理士や MND 専門ナース、研究者の計 20 名で構成されていました。患者さんは、担当医による問診・診察→電気生理検査 (NCS,EMG,TMS,etc) & エコー→心理検査→Matthew の診察→MND 専門ナース (multidisciplinary care) という流れで診療が進んでいきます。私は、初診時のエコーで fasciculation の有無や神経サイズのチェックを担当していましたが、同時に簡単な問診や神経診察をするチャンスがありました。

臨床研究としては、ALS の神経エコーサイズと臨床像の関係、fasciculation の頻度と進行の関係について検討しました。研究成果は、9月に Gold coast で開催されたオーストラリア・ニュージーランド神経学会の Neurophysiological workshop 「Median/ulnar nerve ultrasound cross-sectional area ratio



研究室にて：スタッフとの1枚（右から2人目が私です）

in ALS」で発表し、今年5月札幌で開催される神経総会では「Characteristics of nerve size in ALS subtype using neuromuscular ultrasound」に関して発表する予定です。

エコー以外の時間は、TMSの検査にも積極的に参加するようにしていました。lower motor neuron signを評価する筋電図に対して、TT-TMSはupper motor neuron signを評価出来得る唯一の電気生理検査ではないかと思います。ALSの診断は臨床症状からなされていることを考えると、TMSは非常に有用な検査だと感じました。

1年間という短い期間だったので、休日にはできる限り家族で出かけるように心掛けていました。シドニー近郊だけでなく、学会参加も含め1年間で多くの都市を旅することができました。最も印象に残ったもの

としてシドニー～パース間を4日間かけて電車で横断するインディアンパシフィック号の旅があります。シドニー→アデレード→ナラボー→パースと各都市を観光しながらオーストラリアを横断しました。特にアデレードからパースへ向かう途中にグレートビクトリア砂漠南部のナラボー平原を通るのですが、このナラボーとはアボリジニーの言葉で「何もない」という意味だそうで、まさに行けども行けども何もない荒野の旅は、おおよそ日本で経験することができないものでした。

あつという間の1年でしたが、医学だけでなく、たくさんの貴重な経験をさせていただきました。帰国後は日常診療へ活用するつもりですが、この経験を後輩に伝えることができれば幸いと思います。



オーストラリア大陸横断の旅（クックにて）



シドニーオリンピックプール

タイのコンケン大学で行われた ICEM (International Challenge on Emergency Medicine) に参加して

野中裕文 (M6)

3月30日～4月3日、タイのコンケン大学で行われた ICEM という救命救急医学に関する医学生の大大会に、4～6年生(2018年4月現在)の2チーム、計8名で参加してきました。

今回の参加は福岡大学として初めてのことであり、事前に大会の情報等は無く、準備については医学英語、ICLS、ACLS、エコーなどの臨床手技、推薦図書であった Tintinalli's Emergency medicine の問題集を分担して解く、ということを行いました。医学英語については解剖学教室のフェリル先生にお願いをして、医療面接や医学英単語などを学びました。ICLS や ACLS には救命救急センターにある練習室にて練習をし、4,5年生はBSL未経験だったので、救命救急センターの夜間当直で見学させていただきました。

1日目の Welcome party では、他の参加者たちと交流することができました。本大会には26大学が参加しており、バングラデッシュ、タイ、カンボジア、フィリピン、中国、マレーシア、ベトナム、アメリカ、日本と各国から参加していました。日本からは和歌山医科大学、筑波大学も参加していました。日本では英語を話す機会もないですが、他の国の学生は積極的に話しかけてくれてコミュニケーションをとることができました。

2日目、1st ラウンドが行われました。会場の前ですべての電子機器を回収され、MCQと時間制限のある筆記テスト(解剖学で行われるムービングテストのような形式)です。MCQの問題の内容については、文章題がメインであり、英語の速読ができるか、正確に問題の内容を把握できるか、知識があるか、と日本語のテストとは異なるポイントもあり、難しいものでしたが、推薦された問題集からの出題もあり、事前の対策はもう少しできると思いました。筆記テストについては、正確にスペルを書けるか、医療現場で使われているものの名前が英語でわかるかという点がポイントでした。日本語でわかっても英語がわからないと解答できないという点でもどかしさを感じました。



3 日目はメディカルツアーという病院内で実技のレクチャーがありました。ケースシナリオで気道閉塞への対応をしたり、エコーの練習をしたりと、内容はとても充実していました。メディカルツアーのグループはメンバーが他の大学の学生とシャッフルされており、日本以外の国での臨床実習の状況、実技は実際にどのくらいできているかなど、世界の医学生の学習方法などを知ることができました。

4 日目は 2nd ラウンド、Rose ラウンド、Final ラウンドでした。残念ながら福岡大学を含め、日本の大学は 1st ラウンドを勝ち上がることはできませんでした。そのため、見学となりましたが、勝ち上がった大学の学生たちの知識、対応力などを目の当たりにすることができました。同行していただいた八尋先生によると日本の専門医試験に出るような問題もありました。それを答えることができる学生たちの学習の深さに刺激されました。Final ラウンドでは実際のシナリオを与えられ、それに対する対応を試されていました。各セクションの様子はビデオ中継により見ることができ、それに対して、ポイントの解説も行われました。

本大会では日程のように文化交流なども多くあり、各参加国の医学生とコミュニケーションをとり、見識を深めることもできた点が良かったと思います。

2 日目の朝に夏の留学の際にお世話になった ER の先生とお会いすることができ、ER の見学を快く受け入れてくださりました。スケジュールでは市街の見学ということで市街地に行く予定でしたが、8 人のうち 4 人は ER の実習に行きました。ER では実際に腹痛の患者さんにエコー検査をしたり、英語を話せる患者さんを相手に英語で問診をとり、その病態についてドクターと考えたりと充実した実習をさせてもらいました。3 時間と短い時間でしたが、タイの ER で実際に働いているドクターに話を聞くことができ、日本の医療との違いを知ることができたのはとてもためになる体験でした。1st ラウンドで医学英語の語彙力の不足を痛感しましたが、ここでも実際にドクターと話す際に必要な単語が出てこないなど、英語でのコミュニケーションの大変さを痛感しました。

他のメンバーの感想を一部ではありますが紹介させていただきます。

- ・世界の医学生の医師になるという本気を感じられた。学ぶことに妥協を覚え始めていたので刺激になった。
- ・MCQ などは確実にわかる問題も多く、頑張ればきっと手が届く、悔しい。
- ・タイの医学教育の水準の高さに驚いた。



TIME	FRI 30th MARCH	SAT 31st MARCH	SUN 1st APRIL	MON 2nd APRIL	TUE 3rd APRIL
07:00 AM		Breakfast	Breakfast	Breakfast	Breakfast and Departure
08:00 AM			dress code: casual long pants, no flipflops	dress code: casual long pants, no flipflops	
09:00 AM		MCQ (Round 1) dress code: casual long pants no flipflops	Medical tour (Emergency Medical Workshop)	MCQ (Round 2: Short answer)	
10:00 AM					
11:00 AM					
12:00 PM		Lunch	Lunch	Lunch	
01:00 PM		dress code: casual clothes for playing water	Walk Rally	Rival and ROSC round	
02:00 PM		Mini Songkran Festival			
03:00 PM				Final Round	
04:00 PM		Dinner	Dinner		
05:00 PM	Registration			Awarding and Closing Ceremony	
06:00 PM	Opening Ceremony dress code: formal	Leisure time at Walking Street or at hotel	Leisure time at Night market or at hotel	Forewell Party dress code: traditional clothes	
07:00 PM					
08:00 PM					





- ・世界の医師と比べた時に根本的な人間的にまだまだ足りない点がある。一人の医学生として、まずは人間としていろいろなことを学ばないといけないと感じた。
- ・付け焼刃の英語力では英語で医学を学ぶ海外の医学生に立ち向かうこともできず、また、海外の医学生に聞きたいことがあっても自分の英語力では聞くこともできず残念だった。
- ・海外で働きたいという希望は今のところないが、論文や Up to date などの最新情報を追うためにはある程度の英語力が必須であり、ICEM を通じてそれを再認識した。
- ・ほとんどの大学がアジアからの参加であり、正直、医学教育もたいしたことはないだろうと思っていた部分があったが、自分や福岡大学の学生には感じられない必死さがひしひしと伝わってきた。日本の研修医でも彼らほど冷静に行動できないのではないかと思えた。彼らの姿を見てモチベー



- ・ヨンが高まった。
- ・ネイティブスピーカーではない人たちの英語は聞き取りづらい部分もあったが、それでも果敢にコミュニケーションをとろうとする姿勢は、英語がうまくなくシャイな日本人も見習うべきだと感じた。
- ・ICEM を通じて、英語の必要性を再認識し、勉強に対するモチベーションがとても高まった。来年以降も、後輩たちにはぜひ参加してほしいと思う。
- ・きちんと時間をかけて準備をすれば決して戦えないレベルの大会ではないと感じた。
- ・メディカルツアーの際、質問するタイの学生からはやらされているという感覚は全く感じられず、自ら学ぼうという積極的な姿勢が感じられた。自分の推論過程の是非を確認し、修正する姿勢などは既に医師となるということを強く見据えているからこそ生まれる姿勢であり、同じ医学生として大変感化された。
- ・メディカルツアーで気管挿管などのシミュレーショ





ンもあったが、スムーズに挿管する学生もおり、臨床能力の差も感じさせられた。

- ・主催大学のコンケン大学の学生のおもてなしが素晴らしく、地方都市であるにも関わらず、不自由なく過ごすことができた。
- ・コンケン大学から福岡大学へ留学で来ていた学生たちとの交流が今も続けられていることがよかったと思う。今後も続いてほしい。
- ・事前学習を含め、メンバー同士でモチベーションを高くして活動できてよかった。
- ・筑波大学、和歌山医科大学と、日本からの参加大学の学生との交流も同じ医学生として刺激を受けた。
- ・留学のタイミングとして早すぎるかと思ったが、この大会に参加することで、普段関わらない先輩と知り合い、一緒に勉強し、手技を習うことができた。そして海外のレベルの高い医学生と交流し、自分が今持っている力を試せたことはかけがえのない

経験であり、参加できたことに感謝している。この経験で得た知識、モチベーションを無駄にせず、これからも精一杯勉強していきたい。

- ・いろいろな経験ができ、自分の殻を破ることができたと思う。これからも積極的に経験を積み、良い医師になるべく自分を磨いていきたいと思う。

最後になりましたが、今回の大会参加を実現させていただいた朔医学部長、メンバー選抜をサポートさせていただいた安元教授、同行してくださった八尋先生、英語の講義をして下さった解剖学教室のフェリル先生、当直実習、練習を受け入れてくださった星野先生、救命救急センターの先生方、在外研究援助金による大会参加へのご支援をいただいた烏帽子会の先生方、ありがとうございました。多くの先生方のご支援により、今大会への参加を実りあるものにする事ができました。

八人の感想をすべて載せることはできませんが、大会を通じてそれぞれに多くのことを学び、刺激を得ることができました。この経験を胸により良い医師になれるよう努力していきたいと思えます。

■ 2018年 ICEM 参加メンバー

- 6年：野中裕文 松本貴文 小川洋平
藤村和弥 竹茂彰子
5年：岡本峻和 金子 竣
4年：北村陽奈





姓 名	年度	回・学年	勤務先	地位役職	予定期間	留学先	支給額
宮 原 尚 文	29	32	聖マリア病院	福大助手	1710 } 1810	Vienna,Austria/Division of Thoracic Surgery, Lung Transplantation Research Laboratory,Medical University of Vienna	20 万円
木 村 岳 史	29	28	信州大学医学部 第二内科	助 教	1803 } 2002	National Institutes of Health, NIDDK Molecular Signaling Section,Lab.of.Bioorganic Chemistry	20 万円
石 松 哲 郎	29	34	福岡大学病院 整形外科	福大大学院生	1810 } 1903	BG Trauma Center Tubingen (SchnarrenbergstraBe 95-72076 Tubingen,Germany)	20 万円
仲 村 佳 彦	29	27	救急救命九州研修所	福大講師 (4-7)	1804 } 1903	Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School, Neuroprotection Research Laboratory	20 万円
野見山 櫻 子	29	当時 M2	福岡大学医学部 医学科	学 生	170817 } 170824	マサチューセッツ総合病院 27 回生山田哲平先生引受	10 万円
野 中 裕 文	29	当時 M5	福岡大学医学部 医学科	学 生	170812 } 170819	コンケン大学	10 万円
代表´野中裕文	29	M6	福岡大学医学部 医学科	学生 8 名	180330 } 180403	コンケン大学 ICEM (International Challenge on Emergency Medicune) へ福岡大学代表として 2 チーム 参加	40 万円

学生会員支援報告

白衣授与式を終えて

西野正嗣 (M5)

この度はこのような素晴らしい白衣授与式・StudentDoctor 認定式を開催していただき、誠にありがとうございました。この場をお借りし5年生を代表し、烏帽子会の皆様並びに福岡大学の先生がたに心からお礼を申し上げます。

白衣授与式では烏帽子会から立派な白衣を頂きました。白衣には学生一人ひとりの名前が刺繍されており、実習といえども臨床に携わる一員であるという責任感を実感するとともに、先生がたから私たちへの大きな期待を感じ、身が引き締まる思いです。

さて、私たちはここまでの4年間で座学を中心に医学を学んでまいりました。勉強が辛い時もありましたが、時には仲間と励まし合い、教え合いながら、無事に進級し102名がこの式に臨むことができました。これからの実習では、積極的に患者さんのもとに行き、簡単な挨拶・声掛けから問診・身体診察まで実

践し、患者さんの気持ち立つことができるようになりたいと考えております。また、病棟に出れば、私たちは患者さんから医療チームの一員としてみなされます。患者さんに失礼がないよう礼儀正しく行動し、実習に協力してくださることに感謝を常に持ちたいと思います。そして、指導いただける先生と連携し、他の職種のスタッフの方々とコミュニケーションを取りながら、責任と自覚を持って行動していきたいと思えます。

私たちは臨床経験がないため、実際に現場に出て、患者さんと関わることに不安を感じますが、同時に、患者さんの役に立てることに喜びややりがいを感じております。これから、一年半にわたる実習を有意義なものになるよう、この式で感じた責任や期待を大切にしながら、5年生一人ひとりが成長することをここに誓い、お礼の言葉とさせていただきます。



白衣授与式

支部だより

大城昌平先生の古希祝い

筑後支部支部長 浅倉 敏 明 (8回生)

福岡大学医学部筑後支部の有志で平成 29 年 11 月 14 日大城先生の古希を祝う会を催しました。10 名の参加者でした。場所は柳川郷土料理の名店つむらです。

大城先生は 1 回生のご卒業で柳川の大城医院の院長であり、また現在北原白秋を偲ぶ白秋会の会長も務めておられます。

先生は平成 4 年、当時の山崎 節同窓会会長の呼びかけで筑後支部設立にご尽力されました。現在の筑後支部の発展は大城先生のおかげであります。

乾杯の音頭は 1 回生の足達 裕先生にお願いしました。2 回生の甲斐 保先生には美味しい焼酎を振る舞って頂きました。旨い料理と酒に舌鼓をうちながら、宴会の途中で各人の近況報告を致しました。皆様それぞれの立場で福大卒の誇りをもって奮闘しておりました。

支部長としてはうれしい限りです。

会の終了後店の外で大城先生の胴上げをしまし

た。良い会でした。

ご自宅までお送りしましたところ奥様が出てこれお礼を頂きました。

筑後支部の皆は先生のお人柄に惹かれております。支部の顧問としてこれからも御指導堪りたく存じます。

大城先生お体をお大事に、今後の益々のご活躍を祈念致します。



平成 30 年 1 月 26 日西日本新聞筑後版
右最前列が大城先生



前列左より二宮先生、蔵本先生、足達先生、甲斐先生、浅倉
後列左より田中先生、関先生、宿里先生、菊池先生、古賀先生

秋吉恵介先生の絵画展

筑後支部支部長 浅倉 敏 明 (8回生)

秋吉恵介先生(7回卒)が久留米市内の中心部にある一番街多目的ギャラリーで先生御自身が描いたアクリル・油彩の展示会を開かれました。KEISUKE AKIYOSHI 画展 - KEI'S GALLERY - と名付けられた作品の展示会です。会期は平成30年2月6日より12日まででした。

先生は現在佐賀県みやき町で秋吉医院を開業しておられます。また先生は私の福大医学部ラグビー部の先輩であり現役時代は医学部レベルを超えた俊足のウイングでトライゲッターとして活躍されました。

先生が絵画を嗜まれることは昨年暮れの案内状で初めて知りました。10年ほど前から始められたそうです。久留米市の福大医学部同窓生の一部と、久留米医師会の一部の先生方にお知らせし最終日でしたが、仲間を引き連れて私も見学に行きました。

久しぶりにお会いした秋吉先輩はお元気そうでお変わりなく、学生時代の頃のように引き締まった体型をしていました。ラグビーでしか先生のことを知らなかったのですが意外な一面を見せていただきました。

作品のすべてを見て回りましたが非常に独創的でどの絵も印象に残る見事な出来栄でした。海外に渡り現地で描いた作品もあるとのことでした。

私の懇意にしている久留米医師会の外科の先生はお金を払ってでも買いたい作品があったと申しておりました。展示会の来場者数は269名と盛況でした。

秋吉画伯また素晴らしい作品の展示会をお願いします。



右が秋吉先生



キャンパス便り

《平成 30 年度 烏帽子会賞受章者名簿》

愛好会名	受賞者	受賞対象
バスケットボール愛好会	団 体 表 彰	第 69 回西日本医科学生総合体育大会 女子バスケットボール愛好会準優勝
卓球愛好会	麻 生 大 貴	第 77 回西日本医歯薬学生卓球大会 個人戦ダブルス優勝
英語研究会	衛 藤 響 子	JIMSA Speech Contest 2017 審査員特別賞,1 位

第 69 回 西医体準優勝のご報告

福岡大学医学部 女子バスケットボール愛好会 大 西 七 絵 (M5)

まず初めに、栄誉ある烏帽子会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

この度、昨年 8 月に行われました第 69 回西日本医科学生総合体育大会女子バスケットボール部門において、準優勝という結果をおさめることができましたのでご報告させていただきます。

女子バスケットボール部は、私が入学した当時より先輩方によって輝かしい成績を残されており、今年も含めると烏帽子会賞も有難いことに 4 年連続表彰をいただくこととなりました。毎年、烏帽子会総会で先輩先生方からいただくご支援・激励のお言葉には感謝してなりません。本当にありがとうございます。

バスケットボールは 5 人で 40 分間走りながら点を競い合うスポーツで、体力的にも精神的にも楽な競

技ではありません。実習やテストなどもありなかなか人数が揃っての練習もできない中で臨んだ西医体は、一戦一戦が勝敗のわからない試合でした。そんな中皆で励まし合い得ることのできた準優勝は本当に嬉しいもので、特にわたしがキャプテンを務めた一年間は良い結果が出ず伸び悩んでいた時期もあったので、この結果が決まったときは心より安堵したことを覚えています。

このような成績がおさめられたのもこれまで多くのご支援を頂きました OBOG の先生方、指導して下さった先輩方、一緒に練習をしてきた部員、すべての方々のおかげだと思っています。今後とも部員一同より良い愛好会を目指していきますのでよろしくお願いいたします。





西日本医歯薬学生卓球大会優勝を通して

福岡大学医学部 卓球愛好会 麻生大貴 (M5)

はじめに、栄誉ある烏帽子会賞を頂きましたことを厚く御礼申し上げます。第77回、名古屋大学主管のもと、西日本医歯薬学生卓球大会において個人戦ダブルスの部で優勝いたしましたのでご報告させていただきます。

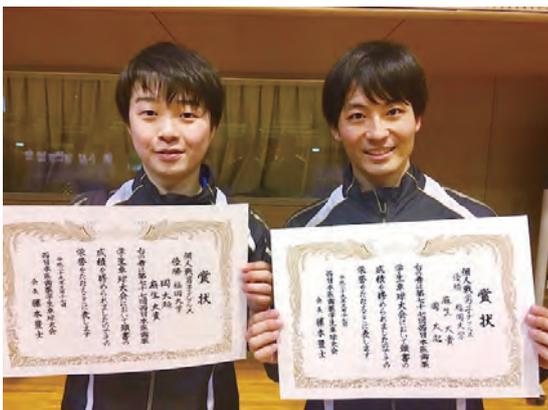
本大会は毎年3月に開催されており、出場参加資格は医学部・歯学部・薬学部に所属する学生で、今回は男子の部が約500名、女子の部が約300名の参加で行われました。九州山口医科学生体育大会や西日本医科学生総合体育大会と並ぶ大会となっております。

今回、同愛好会に所属する薬学部の先輩とダブルスを組ませて頂きました。九州山口医科学生体育大会、西日本医科学生総合体育大会の個人戦シン

グルスではそれぞれベスト4、ベスト8とこれまであと一步のところまで悔しい結果に終わっていたため、練習の成果を発揮でき嬉しく思っております。

また勉強の面では5年生となり、実習が始まりました。これまで座学で学んだ内容を元に臨床の現場から少しでも多くのことを吸収できるように実習に励んでいきたいと思っております。

最後に、これまで多大なご支援を頂きましたOBOGの先生方、卓球部の発展に尽力を尽くして下さいました顧問の先生、多くのことを指導して下さいましたコーチ、共に練習し、会場で応援をしてくれた部員、全ての方々のお蔭様で今大会の成績を取ることができました。ありがとうございました。



JIMSA Speech contest 2017 優勝、 審査員特別賞を受賞して

福岡大学医学部 英語研究会 衛 藤 響 子 (M2)

はじめに、荣誉ある烏帽子会賞を受賞させていただき、誠にありがとうございます。

この度、昨年5月に久留米大学と合同で開催された JIMSA Speech Contest 2017 において1位と審査員特別賞を受賞致しましたのでご報告させていただきます。

この大会への出場が決まって、私は祖父とのエピソードをスピーチのテーマにして、原稿を書きました。ステージに立って英語でスピーチするのは初めてで、何もわからないところからのスタートでしたが、先輩方や先生にご指導いただき、発表の準備を進めていくことができました。どう工夫すれば自分の思いを人に伝えることができるのだろうと悩みましたが、抑

揚や身振りをつける、また原稿を暗記して、訴えるように審査員の目を見てスピーチするようにアドバイスを受け、それらを心掛けて練習し本番に臨みました。審査員からスピーチにおいて伝える姿勢がよかった、と講評をいただいたので、練習の成果を出し自分の思いを伝えることができたことを実感しました。今回この大会に出場したことで、発音、抑揚、スピーチを行う上でのエッセンスや緊張しながらもやるべきことをやりきることなど多くのことを学ぶことができました。これからも所属している ESS 英語研究会でみんなと英語を学びながらグローバルな医師を目指して頑張っていきたいです。



福岡大学医学部同窓会 烏帽子会賞褒賞基準

1. (目的)
福岡大学医学部同窓会(以下烏帽子会という)は、その所属する学生会員が対外試合または活動において優勝し或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個人に対し、その栄誉を讃え賞状、賞金または賞品を授与してこれを表彰する。
2. (賞の名称)
この賞を烏帽子会賞という。
3. (対象試合等) 表彰の対象となる試合または活動とは、概ね西日本医科学生総合体育大会、九州 山口医科学生体育大会を含むその規模以上のものを云い、内容は単に体育関係のみならず学術、芸術等多岐に亘るものとする。
4. (申告書の提出) 烏帽子会は烏帽子会が表彰に値すると認めた団体または個人、或いは自ら表彰を希望する団体または個人に対し、烏帽子会賞申告書及び賞状の写しをを提出させる。
5. (表彰の審査)
表彰の審査及び賞金額の決定は理事会において行う。
賞金または賞品の支給基準額は別表の通りとする。
6. (表彰) 表彰は総会、理事会等の席上で行い賞金を授与し会報に掲載する。
付則 1, この基準は平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
2, この改正基準は平成 22 年 1 月 15 日から施行する。

別表) 烏帽子会賞の基準(学術部門)

		学会全国	学会地方会	その他
団体	優勝	50,000 円	30,000 円	その都度判定
	準優勝	40,000 円	20,000 円	その都度判定
	3 位	30,000 円	10,000 円	
個人	優勝	30,000 円	20,000 円	その都度判定
	準優勝	20,000 円	10,000 円	その都度判定
	3 位	10,000 円		

※シムリンピック 学会全国充当
CPR 選手権大会九州ブロック=学会地方会充当
CPR 選手権大会全国ブロック=学会全国充当

別表) 烏帽子会賞の基準(愛好会部門)

		西医体	全医体	九山	その他
団体	優勝	50,000 円	30,000 円	30,000 円	その都度判定
	準優勝	40,000 円	20,000 円	20,000 円	その都度判定
	3 位	30,000 円			
	4 位	20,000 円			
個人	優勝	30,000 円	20,000 円	20,000 円	その都度判定
	準優勝	20,000 円	10,000 円	10,000 円	その都度判定
	3 位	10,000 円			
	4 位				

※但し烏帽子会賞は同一大会に 1 個とし、上位の成績を表彰する。
参加チーム数の少ない場合は理事会にて減額することができる。
5 年連続受賞においては殿堂入りと賞し賞状を授与する。

訃 報

正 会 員	東 陽一郎 先生	平成 29 年 11 月 18 日	ご逝去 (4 回生)
正 会 員	佐 藤 之 先生	平成 30 年 2 月 15 日	ご逝去 (6 回生)
正 会 員	田 中 達 朗 先生	平成 29 年 11 月 30 日	ご逝去 (12 回生)
正 会 員	竹 嶋 亮太郎 先生	平成 30 年 2 月 21 日	ご逝去 (25 回生)

廣木忠行先生に感謝をこめて

福岡大学医学部長 朔 啓二郎 (1 回生)

廣木先生、先生は昭和 34 年に東京医科歯科大学をご卒業され、福岡大学病院の臨床検査医学の助教授（荒川教授の第二内科の助教授）として昭和 49 年 1 月に福岡大学に赴任されてこられました。先生の独特の優しい、紳士的な柔らかな物腰、病棟回診のときの先生の THACKRAY の聴診器、私は全く違った文化、都会的なセンスに憧れを感じていました。先生は若かりし頃、米国オハイオ州シンシナティ大学にご留学されました。私も 1981～1985 年、先生と同じ大学に留学させていただきました。下の写真は 1981 年 10 月下旬、先生がシンシナティにご訪問されたときの写真です。先生の秘書をしておりました女房の妹、伎光子が女房の出産の手伝いに来てくれた時でした。生まれて 1 か月のベビー（啓太、現在九大循内）と女房（錦）、伎光子と私を、当時一番良いシンシナティのレストランに連れて行っていただきステーキをご馳走していただいた時の写真です。その時、以前住まれていた家や当時の英語の先生宅を

訪問されたのですが、私の車で送っていったのを思い出します。

私が荒川教授の後継になってからも毎年同門会・忘年会だけは欠かすことなく出席いただきました。私の主任教授退任パーティにもお元気にご出席いただきましたが、突然の先生の訃報に愕然といたしました。先生のあの優しい雰囲気、日本医師会雑誌に取り上げられた何年にもわたって医師の生涯教育「大濠カンファレンス」を継続された情熱、心電図・不整脈における奥の深い研究、何人もの若手研究者を育てられ福岡大学心臓・血管内科学の不整脈チームの原点を作っていただいた素晴らしいご功績、福岡大学筑紫病院の教授になられ現在の筑紫病院循環器内科の基礎を築かれたご功績に対して、心から感謝の気持ちを先生に申し上げさせていただきます。本当にありがとうございました。先生のご努力なしに福岡大学心臓・血管内科学の発展はなかったのです。

心からご冥福を祈ります。



哀悼 松岡雄治先生

福岡大学医学部 臨床検査医学講座 教授 松 永 彰 (3 回生)

松岡雄治先生には大変お世話になりました。最初が私が医学部1年生の時、九大出身の大木幸介先生著のブルーボックス(量子生物学)を読んで大木先生に疑問を投稿したところ、松岡雄治先生から私の下宿に電話がありました。当時は突然の電話でしどろもどろの受け答えしかできなかったのを覚えています。

1975年医学部2年生では松岡先生の生化学の講義をたくさん受けました。非常に明快で悠然とした講義だったのが思い出されます。研修医として第二内科に入局後、1982～1986年の4年間 生化学第一講座の大学院生としてお世話になりました。私の語学試験点数が今ひとつで内科の大学院には残れなかったのですが、松岡先生は快く受け入れて下さいました。松岡雄治先生は大阪大学医学部癌研の時代から、腫瘍マーカー、特に癌胎児性抗原(CEA)の研究をライフワークにされておられました。当時は、後に二代目主任教授になられた黒木政秀先生をはじ

めとして、黒木求先生(看護学科教授)、立石カヨ子先生(横浜薬科大学教授)、一木貞徳先生(一木こどもクリニック院長)など多くの先生が在籍され、企業からもCEAの研究のために何人も来られていました。生化学第一講座では黒木政秀先生には厳しく、松岡雄治先生には大変優しく指導して頂きました。私は当時流行のモノクローナル抗体を使ったCEA関連抗原の研究で学位を頂きましたが、最後はかなり手伝って頂きました。感謝申し上げます。

大学院修了後も折に触れ、生化学第一講座の懇親会などにもよんで頂きました。

松岡雄治先生は1991年から医学部長を2期4年間され、福岡大学医学部発展のため数々の改革に尽力され、1998年に主任教授を定年退職されました。

お子様がおられなかったこともあり、亡くなる前には、ご自分でご葬儀など全ての準備を決め、黒木政秀先生に託されたとお聞きしています。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

1973年	(S 48年)	4月	生化学講座開講、松岡雄治先生 主任教授就任 (初代)
1978年	(S 53年)	4月	生化学第一講座に改称 (第二講座開講のため)
1991年	(H 3年)	12月	松岡雄治先生 医学部長就任
1995年	(H 7年)	11月	医学部長退任
1998年	(H 10年)	3月	松岡雄治先生 主任教授退任



松岡雄治教授退任記念会および福岡大学医学部生化学第一教室二十五周年記念会
平成 10年 3月 28日 於 福岡ガーデンパレス



追悼 オーベンだった東陽一郎先生へ ～感謝を込めて～

福岡大学医学部 医学教育推進講座 教授 安元佐和 (7回生)

平成29年11月8日、東先生の突然の訃報に驚き、小児科の廣瀬教授と共に佐世保でのお通夜に出席しました。その時の遺影の東先生は、私が福岡大学小児科に入局した当時と同じ、野球が大好きで患者さんに慕われていた優しい笑顔の先生でした。4年前の小児科同門会で、東先生のご長男と同じ医学部に私の息子が入学し、部活で先輩と後輩になった事をつくづくご縁がありますねとお話したばかりでした。体調がお悪いことも存じ上げず、また同門会でお会いできるものだと思っておりまして、このような形でお別れをすることになるとは、本当に残念ではありません。

東先生は、私が福大小児科に入局した研修医1年目の小児科病棟のオーベンでした。その当時は、小児科病棟に2回生の平野英敏先生、3回生の貝塚博美先生、未熟児センター(現NICU)に3回生入江勝一先生、東先生と同期の津田先生がおられ、入局したての研修医の私たちを昼夜なく指導して下さいました。小田教授、満留教授のもとで、どの先生も個性にあふれ、病気の子どもたちとご家族に、そして私たち研修医にも、とても心の暖かい小児科医の先輩たちでした。その時、私は半日放置すると低タンパク血症で全身浮腫に陥り、点滴も取りづらくなる先天性ネフローゼ症候群の赤ちゃんを受け持ち、東先生とアルブミンの持続投与のために血管確保に難渋する毎日でした。28Gの頭皮針を頭の皮静脈に確保し、本人が手で引っばって抜かないように半分に切った検尿コップを針先に帽子のように被せて保護したりと工

夫の毎日でした。その赤ちゃんは腎臓移植のために東京の病院へ転院するまで、様々な合併症を起しましたが、その子どものお母さんの東先生に対する信頼は絶大でした。振り返って見ると、東先生と子どもたちや家族との日々の穏やかなやり取りは、私の中に自然に刷り込まれ、私の小児科医としての原点になりました。その後、筑紫病院でも一緒に働き、先生のご退職の送別会を二日市温泉の大丸別荘で大々的に開催し、幹事として大赤字を出したことも良き思い出です。佐世保での盛大な結婚式にも、私達後輩まで招待して下さいましたね。

今年の春、東先生のご長男は初期臨床研修を終え、小児科医の道に進まれました。きっと東先生の優しさを引き継ぎ、良き小児科医として活躍されることと思います。もっと東先生とお話しておけば良かったと悔やまれますが、先生とのご縁は、先生のご長男と私の息子にも繋がっております。

小児科医としての最初の一步を私に教えて下さったことに、心から感謝を捧げます。東先生、本当に有り難うございました。



佐藤 之先生を偲んで

占部医院院長 占 部 嘉 男 (5 回生)

昨年 12 月の診療中に突然の電話がありました。「占部、実は俺、1 月にわかったんやけど前立腺癌のステージⅣで手術もできんよ」弱々しいながらも覚悟を決めた告白にショックを通り越し、しばらく返事ができませんでした。「飯も食えんごとになって、先月で勝山の診療所を閉めたんよ。相談やけど代わりに診療所をやってくれる先生おらんかねえ」死期が迫ってもなお自分が診ていた患者さんのことを心配する彼の優しさに涙が止まりませんでした。私が筑紫病院に勤務していた 20 年前にも彼から電話があり「今度、行橋に行橋京都休日夜間急患センターが出来るけど筑紫病院から医師を派遣してもらえんやろか」とのこと。当時、医局員を派遣できる余裕はなく、私自ら行くことになりました。地域医療への思い入れが強い彼らしいエピソードです。

佐藤先生との出会いは浪人時代の全寮制予備校でした。私より一つ年上のため社会慣れしており、休みの日には洒落た喫茶店を見つけたといっちはコー

ヒーを飲みながら悩みを打ち明ける仲でした。そんな縁で、福大入学後は同じクラスであったこともあり、飲み会も試験勉強もいつも一緒にやっていました。

彼の人懐っさもあり、茶山にあった行きつけの居酒屋に集まる同級生仲間ヘルペス会（疲れると口唇ヘルペスが出る会員がいたため）を結成し卒業後も家族ぐるみの付き合いが続いています。写真は 30 年前の会で撮った一枚です。前列中央が佐藤先生、後列左から 3 番目が呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学の岩崎教授です。

告別式には地元医師会、同級生のみならず多くの患者さんが参列しておりました。彼がいかに地元から愛され、信頼され、尊敬されていたかが分かります。

年齢的にもまだまだやり残したことはあったと思いますが、本当にお疲れさまでした。

心よりご冥福をお祈りいたします。



田中達朗君を偲ぶ

東海大学医学部 健康管理学 准教授 護 山 健 悟 (12 回生)



12 回生の田中達朗君が他界した。たまたま受けた PET で見つかったがんとの闘いであった。幾度となく不死身のようになり危機を脱したが、力尽きてしまった。頭を

殴られたような衝撃を受けた。

私と達朗との出会いは実は小学生の時の塾の合宿に遡る。甲辞を読まれた星子久先生と共に面影をぼんやりと覚えている。それが大学の同級生になり、同じバレーボール愛好会で苦楽を共にするとは思っていませんでした。バレーの素人であった我々は、先輩からしこたまごかれた。技術的にも精神的にも鍛えられた。ぐちをたたきあいながら苦しい時期を共に乗り越えた。フライングレシーブの練習を 2 人でシャツに血がにじむまでやった。練習場所が取れず、第二記念会堂以外にも、南区体育館や前原の体育館でも練習した。九山や西医体が近づくと朝練を 6 時から第二記念会堂でやっていたが、本学の女子バレーボール部が頻りに私たちの練習を妨げた。達朗に連れられて、当時から大学日本一を目指していた本学女子バレーボール部の監督に練習させてくれと懇願に行ったこともある。

大会で印象的だったのは私たちが 3 年の時の西医体である。京都府立医大の主幹であったが、試合会場を取り損ね 8 月 15、16 日の開催であった。5 年生、6 年生の先輩から、「お前たちは下手クソで弱すぎるから、勝手に試合してこい」とさじを投げられ、マネージャーを含めて 9 人で大会に臨んだ。1 回戦

から苦戦が続き、試合時間が長くなり、孤軍奮闘していた先輩が脱水のため救急車で運ばれた。マネージャーの間さんが付き添ったのでベスト 4 をかけた試合は 7 人となり、試合前の練習の球拾いや、セット終了後のベンチ移動は相手の広島大学が手伝ってくれた。広島大学の相手にはならなかったが、達朗を中心に一致団結し死力を尽くし、一生忘れられない大会になった。

佐賀大学の皮膚科の恩師である成澤寛先生がおっしゃっていたように、達朗には人を引き付ける何かがあった。学生時代から人気者でクラスの中心的存在であった。達朗がクラスの前に出てジョークを言って皆を笑わせていた。バレーボール愛好会では主将を務め、クラブを引っ張っていった。先輩、後輩皆から慕われ頼られていた。もちろん私も全面的な信頼を寄せていた。

達朗は大学卒業後、一時脳神経外科を専攻したが、故郷の瀬高町で開業をするために佐賀医大の皮膚科に入局した。佐賀医大でも病棟医長や医局長などを務め、医局の中心的存在としてたいそう忙しかっていたようだ。私の亡き母が、偶然にも達朗の出向先の佐世保共済病院でお世話になったこともあった。「あなたの同級生の田中先生、よか先生ねえ」と言っていた。その後、お兄さんの田中彰一先生が継承されたクリニックの同じ敷地内に皮膚科を開業した。患者さんの達朗に寄せる信頼は相当なものであったであろう。クリニックも盛況であったようだ。ぜひ瀬高町上庄のたなか皮膚科クリニックのホームページで達朗のあいさつ文を読んでみてください。院長のあいさつ文でこのような素晴らしい文章を他で見たことは

ない。

達朗は他界する3か月前まで、クリニックで診療していたそうだ。精神科医である奥さんと共にあらゆる治療の可能性を試したが奇跡は起きなかった。よき父親であった達朗にとって2人の娘さんと1人の息子さんを残していくのはさぞかし心残りだったであろう。若手の芸術家を支援し、プロ野球選手とも付き合いがあり、その交際範囲の広さは驚くものだった。達朗は多くの人を魅了し、信頼を得、支援し支えられて

53歳で旅立った。人生で一番大切に難しいことをななく成し遂げた。

私は長期海外におり、達朗とはなかなか会う機会がなかったのが心残りである。いつか電話で話した時は、自分の病状について淡々と他人ごとのように話してくれたが、闘病は長期に渡りさぞかしつらかったであろう。今は安らかに眠って下さい。そのうちゆっくり話そう。合掌。

竹嶋 亮太郎 先生を偲んで

福岡大学医学部 麻酔科学 原 仁 美 (23 回生)

竹嶋 亮太郎先生の訃報に接し、あまりにも突然のことで大変驚いております。

ご家族・先生と近しくされておられた皆様には心よりお悔やみを申し上げます。

竹嶋先生のお名前を聞いてまず思い出されるのは、穏やかな中にも凜々しく頼もしさの感じられる笑顔です。

同級生の多くよりも、たくさんの経験を積んで入学をされた竹嶋先生は、当初から落ち着きがあり、男女の区別なくいつも笑顔で穏やかに接しておられました。しかし、勉学に対する態度はいつも熱心で、同級生たちがあまり真面目に取り組んでいないような事柄にも真摯に取り組まれ、特に実験や実習などでは誰より

も真面目に手際よく取り組まれていたように記憶しています。また、周囲に困っている者がいれば、物腰柔らかくにしか的確に指南されることで、誰からも頼りに思われておられました。

ご一緒させていただいた福岡大学医学部修猷館会でも、大先輩方に礼儀正しく接せられるのは勿論のこと、下級生にも小気味よい会話で場を盛り上げられ慕われておられました。

最近では地域医療に取り組んでおられるとお聞きしており、学生時代のように多くの人に頼りにされておられたと思うのに、大変残念でなりません。

竹嶋 亮太郎先生が安らかにご永眠されますよう心よりお祈り申し上げます。

烏帽子会の主な事業

福岡大学医学部同窓会烏帽子会は、会員の親睦・連携・信頼を紡ぐことを目的とし、福岡大学医学部の発展に貢献するため下記の事業を行っています。

① 会報の発行

年に2回発行しており、会員と学生会員保護者へ無料にてお届けしています。

② 総会の開催

担当学年の特色を出した総会を開催しています。

③ 支部活動援助

支部総会に学内の同窓生を講師として招聘された場合援助費を支給しています。

支部にて年会費を徴収された場合、通信活動費用として正会員1人2,000円、準会員I人1,000円交付しています。

④ 研究奨励賞

正会員及び準会員で、会費を完納している40才未満の者又は医学科卒業後10年未満の者に、研究計画並びに研究成果に対し研究奨励賞を授与しています。

⑤ 在外研修援助

正会員、準会員及び学生会員で会費を完納している者、留学の目的が医学の研究または医療技術の習得であり、且つその期間が3ヶ月以上である事を条件に援助を行っています。

⑥ 学生会員支援

新入生、M4、M6、国試浪人生への激励会を実施しています。

⑦ 白衣贈与

5年生で使用するBSL用の白衣2着(長着とケーシー型または半袖)を贈与しています。

⑧ 国試対策

夏期、直前に開催されるセミナーへの協力、試験中のケア、国試激励会への協力をしています。

⑨ 支部総会援助

支部総会に理事が出席する場合は祝儀をお届けしています。

⑩ 学生行事援助

学生会員が、対外試合または活動において優勝或いは優秀な成績を収めた場合、その団体または個

人に対し、その榮譽を讃え賞状、賞金または賞品を授与して表彰しています。

⑪ 学会寄付

同窓会員(正会員、準会員)が学会を開催するにあたり申請があった場合、理事会にて学会の規模等を検討し寄付を行っています。特別会員からの申請にも対応しています。

⑫ 慶弔贈与

同窓会会員の慶弔に対し、規定に基づき電報、祝儀、弔慰金をお届けしています。

⑬ グッズ作製

ネクタイ、スカーフ、Tシャツの作製をしています。

⑭ 会員名簿発行

4年毎に名簿を発行し、会員には無料にてお届けしています。

⑮ パニックマニュアル発行

5年毎に作製し、会員に無料にてお届けしています。会員が執筆を行い、研修医を対象として作製しています。卒業生には名簿とパニックマニュアルを同窓会よりの卒業祝いとしています。

⑯ 奨学金貸与

福岡大学医学部医学科学生で学業成績優秀、品行方正、身体強健なるも経済負担能力に乏しい者に対し、奨学金を貸与し、優秀な学生の育成に寄与する事を目的として実施しています。

⑰ 縁結び

福岡大学医学部医学科同窓会の会員及びその家族の成婚を目的とした互助をしています。

⑱ 保険コンサルティング

シンフォニアと提携し、学生会員への保険のご案内をしています。また弁護士、社労士等の紹介をしています。

⑲ ホームページ

ホームページをリニューアルし、会員へ情報提供をしています。

医局長・医長名簿

(○内の数字は福大医学部卒業回)

平成 30 年 4 月現在

	医 局 長	病棟医長	外来医長
[福岡大学病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	田 中 俊 裕 ①⑦	佐々木 秀 法	茂 木 愛 ⑤
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	田 邊 真 紀 人	濱之上 暢 也 ③②	元 永 綾 子 ②⑦
循 環 器 内 科	小 川 正 浩 ⑭	栗 野 孝 志 ⑤	岩 田 敦 ②⑩
消 化 器 内 科	横 山 圭 二 ②②	船 越 禎 広 ②③	石 橋 英 樹 ②③
呼 吸 器 内 科	串 間 尚 子	青 山 崇	松 本 武 格 ②②
腎 臓・膠 原 病 内 科	安 野 哲 彦 ②④	三 宅 勝 久	伊 藤 建 二 ⑤
血液浄化療法センター		升 谷 耕 介	
神 經 内 科・健 康 管 理 科	合 馬 慎 二 ②③	藤 岡 伸 助 ②⑥	津 川 潤
精 神 神 經 科	衛 藤 暢 明	原 田 康 平	飯 田 仁 志 ③②
〃 (ディケア)			永 野 健 太
小 児 科	野 村 優 子 ②②	佐々木 聡 子 ③⑩	井 原 由 紀 子
消 化 器 外 科	吉 田 陽 一 郎	塩 飽 洋 生 ②⑥	加 藤 大 祐 ②④
呼 吸 器・乳 腺 内 分 泌・小 児 外 科	吉 田 康 浩 ②④	早 稲 田 龍 一	今 村 奈 緒 子
整 形 外 科	木 下 浩 一 ②⑥	三 宅 智 ③⑩	木 山 貴 彦 ②④
形 成 外 科	森 田 愛	稲 本 和 也 ③⑤	鈴 木 翔 太 郎
脳 神 經 外 科	安 部 洋 ②⑩	高 原 正 樹 ③③	森 下 登 史
心 臓 血 管 外 科	峰 松 紀 年	林 田 好 生 ②⑩	松 村 仁
皮 膚 科	柴 山 慶 継 ②⑦	山 口 和 記	内 藤 玲 子
泌 尿 器 科	入 江 慎 一 郎 ①⑦	古 屋 隆 三 郎 ②③	松 崎 洋 吏 ②⑦
産 婦 人 科	宮 原 大 輔 ②⑩	倉 員 正 光 (産科)	讚 井 絢 子 ②④
〃		南 星 旭 ②⑧(婦人科)	
眼 科	佐 伯 有 祐	岡 村 寛 能	有 田 直 子 ①⑤
耳 鼻 咽 喉 科	大 西 克 樹 ②⑤	竹 内 寅 之 進	妻 鳥 敬 一 郎 ③②
放 射 線 科	浦 川 博 史 ①⑤	赤 井 智 春 ②⑦	野々熊 真 也 ②④
麻 酔 科	岩 下 耕 平	廣 田 一 紀	柴 田 志 保 ②⑥
歯 科 口 腔 外 科	瀬 戸 美 夏	近 藤 誠 二	喜 多 涼 介
病 理 部	濱 田 義 浩 ①④		
臨 床 検 査 部	大 久 保 久 美 子		
輸 血 部	熊 川 み どり		
救 命 救 急 セ ン タ ー	川 野 恭 雅 ③⑩	入 江 悠 平 ③①	
綜 合 周 産 期 母 子 医 療 セ ン タ ー		太 田 栄 治 ①⑨(新生児部門)	
〃		稲 富 香 織 (3階南病棟)	
綜 合 診 療 部	堀 端 謙	坂 中 博 昭 ③③	増 井 信 太 ②⑨
東 洋 医 学 診 療 部	久 保 田 正 樹 ①④		
薬 剤 部			
臨 床 研 究 支 援 セ ン タ ー			
卒 後 臨 床 研 修 セ ン タ ー			
[福岡大学筑紫病院]			
筑 紫 病 院 (総 医 局 長)	平 野 公 一 ②①	(外 科)	
循 環 器 内 科	白 井 和 之 ⑧	岡 村 圭 祐 ②④	山 本 智 彦 ③⑩
内 分 泌・糖 尿 病 内 科	工 藤 忠 睦 ②③	阿 部 一 朗	小 林 邦 久
呼 吸 器 内 科	※赤 木 隆 紀 ②①	宮 崎 浩 行	竹 田 悟 志 ②⑨
消 化 器 内 科	野 間 栄 次 郎 ①⑧	金 光 高 雄	別 府 剛 志 ②⑨
小 児 科	吉 兼 由 佳 子 ①⑨	堤 信 ②④	鶴 澤 礼 実
外 科	平 野 公 一 ②①	楨 研 二 ②④	平 野 公 一 ②①
整 形 外 科	秋 吉 祐 一 郎	南 川 智 彦	蓑 川 創 ③⑩
脳 神 經 外 科	坂 本 王 哉 ②⑧	新 居 浩 平 ②④	井 上 律 郎 ②⑨
泌 尿 器 科	平 浩 志 ①⑤	平 浩 志 ①⑤	宮 島 茂 郎 ②②
眼 科	中 間 崇 仁	高 橋 理 恵	中 間 崇 仁
耳 鼻 い ん こ う 科	佐 藤 晋 ③⑩	杉 山 喜 一 ③①	佐 藤 晋 ③⑩
放 射 線 科	山 本 良 太 郎 ②②		
救 急 科	岡 村 圭 祐 ②④		
麻 酔 科	平 田 和 彦 ①②		
病 理 部	原 岡 誠 司		

※印は循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）

〔平成 29.10.2 ～ 30.4.1〕

区分	所属	資格	氏名	発令日	摘要
退職	歯科口腔外科学	教授	喜久田 利 弘	30. 3.31	選択定年退職
	寄付研究連携がん薬物療法研究講座	教授	中野 賢 二	30. 3.31	
	筑紫病理部	教授	岩下 明 徳	30. 3.31	定年退職
	筑紫消化器内科	教授	松井 敏 幸	30. 3.31	選択定年退職
	神経内科学	准教授	深江 治 郎	30. 3.31	
	病理学	准教授	久野 敏	30. 3.31	選択定年退職
	腎臓・膠原病内科学	講師	安部 泰 弘 ⑳	30. 3.31	
	脳神経外科学	講師	八木 謙 次	30. 3.31	
	病理学	講師	溝口 幹 朗 ㉑	30. 3.31	
	循環器内科	講師	佐光 英 人 ㉒	30. 3.31	
	精神神経科	講師	松下 満 彦	30. 3.31	
	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学	講師	平塚 昌 文 ㉓	30. 3.31	
	眼 科	講師	梅田 尚 靖 ㉔	30. 3.31	
	筑紫耳鼻いんこう科	講師	樋口 仁 美	30. 3.31	
心臓血管外科	講師(4-7)	桑原 豪 ㉕	30. 3.31	選択定年退職	
筑紫麻酔科	講師(4-7)	生野 慎二郎 ㉖	30. 3.31		
採用	麻酔科学	准教授	東 みどり子	30. 4. 1	
	病理学	准教授	上 杉 憲 子	30. 4. 1	
	衛生・公衆衛生学	准教授	吉村 力 ㉗	30. 4. 1	
	皮膚科学	講師(4-7)	内藤 玲 子	30. 4. 1	
	救命救急センター	講師(4-7)	坂本 哲 哉	30. 4. 1	
昇格	歯科口腔外科学	教授	近藤 誠 二	30. 4. 1	
	放射線部第二	教授	長町 茂 樹	30. 4. 1	
	臨床検査医学	准教授	大久保 久美子	30. 4. 1	
	消化器内科	准教授	竹山 康 章 ㉘	30. 4. 1	
	小児科学	講師	石井 敦 士 ㉙	30. 4. 1	
	衛生・公衆衛生学	講師	前田 俊 樹 ㉚	30. 4. 1	
	小児科	講師	野村 優 子 ㉛	30. 4. 1	
	心臓・血管内科学	講師(4-7)	森井 誠 士 ㉜	30. 4. 1	
	腎臓・膠原病内科学	講師(4-7)	伊藤 建 二 ㉝	30. 4. 1	
救命救急センター	講師(4-7)	星野 耕 大 ㉞	30. 4. 1		

事務局からのご連絡

- ◆会報を広く情報伝達の場に…医学部、病院、同窓会、会員、それぞれの人が、それぞれの相手に蟠りなく伝えて欲しいと願っています。教室、部門紹介など、何時でも何度でも何回でも投稿下さい。広く、躍動する情報テーブルになればと願っています。
- ◆4月から研修をスタートされた先生、勤務先が変わられた先生は同窓会へお知らせ下さい。先輩や後輩が歓迎会や講演会などの連絡を差し上げたいとのことです。会報にあります住所・勤務先連絡票にて事務局までお願いいたします。



編集後記

烏帽子会会報を読むと、本当に多くの同門の先生方や学生さん達をご活躍されていることを知ることができ、楽しい気分になります。特に、大学在籍中に少しでも関わることがあった先生方の在外研修報告を読むと、“日本では経験できないドキドキを味わったんだろうな〜”と羨ましく感じます。今では学生さん達も数多く短期留学をする様になっており、隔世の感があります。大学を離れると、特に一人で開業していると長期休暇をとることは難しくなります。留学経験のない私は、“あの時無理をしても行っておけば良かったかな〜”と少し後悔しています。

昨日は、『母の日』でした。私事ですが、数年前母がくも膜下出血を発症し、もう二度と話すことができないと覚悟を決めたことがありました。今ではお蔭さまで後遺症もなく回復し、一緒に食事を楽しむことができました。母が搬送された病院の理事長先生と治療をして頂いた担当医の先生が同門の先生でした。そのことが何か不安を和らげてくれました。本当に感謝してもし切れません。これから益々同門の先生方が増えてくるのが心強く、楽しみです。烏帽子会会報で色々な疑似体験をさせて頂きたいと思います。

医療法人 栄社会 しもじ内科クリニック 下地 栄壮 (20回生・広報担当理事)

烏帽子会会報第64号

発行日 平成30年5月25日
 発行人 高木 忠博
 編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
 福岡大学医学部同窓会
 電話:092-865-6353(直通)
 092-801-1011(代表) 内線[3032]
 FAX:092-865-9484
 E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷株式会社
 福岡市中央区長浜2-1-30
 電話:092-711-7741
 FAX:092-711-7901